

### III 果 樹

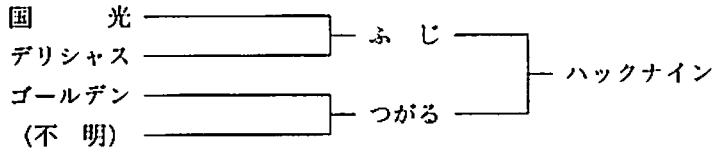
#### 1. リンゴ

##### (1) ハックナイン (旧系統名 HAC 9)

登録番号：(北海道) りんご北海道第8号：(種苗法) 第1237号

来歴 本品種は、1971年(昭46)に北海道立中央農業試験場において「ふじ」を母、「つがる」を父として人工交配を行い育成したもので、1980年(昭55)以降「HAC 9」の系統名で各種の試験を行い、1985年(昭60)に優良(奨励)品種に決定した。(注：HACはHOKKAIDO APPLE CLONEの略)

なお本品種の系譜は次のとおりである。



- 特性概要 1. 樹勢は「ふじ」より強く、樹の大きさは「ふじ」より大きく、樹姿は開張性である。枝しょうは「ふじ」より太く、葉は「ふじ」より大きく丸味を呈する。蕾の色は淡桃色で「ふじ」よりやや濃く、花は「ふじ」よりやや大きい。
2. 発芽期、展葉期、開花期、落花期などは「ふじ」とほぼ同じで、「スターキングデリシャス」よりやや早い。
3. 花芽の着生は「ふじ」なみで、早期結果性も「ふじ」と同等で良好ある。
4. 果実は長円形で「ふじ」よりやや長く、果皮は黄緑色の地色に「ふじ」より鮮明な縞状の赤色で被われる。果実の大きさは250～300gで「ふじ」より大きく、果肉は黄色味の濃い黄白色を呈する。
5. 熟期は10月下旬で「ふじ」より早く、「スターキングデリシャス」なみである。
6. 収量性については、着果数は「ふじ」なみで、果実肥大が良好なことから収量は多い。
7. 果肉は極めて多汁で、甘味多く適度な酸味もあり食味は極めて良い。また果肉がやわらかく、貯蔵性は「ふじ」より劣るが適食期に入るのが早く、冷蔵貯蔵で可食期は11月上旬～2月末とみられる。
8. 各種の病害虫に対する抵抗性は「ふじ」や「スターキングデリシャス」と差がない。
9. 三倍体品種であるため花粉の発芽率は極めて低い。

栽培適地と奨励態度 道央及び道南地域において「デリシャス系」の50%程度を本品種におきかえる。また栽培に当たっては、樹が開張性で大きくなるので栽植距離は「ふじ」より広めとし、花粉の発芽率が極めて低いので、授粉樹として使用しない。

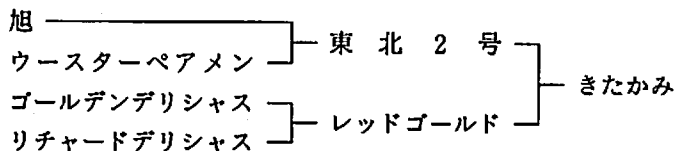
試験場名	品 種 名	展葉期 (月.日)	満開期 (月.日)	1果重 (g)	果 実 品 質			試験年次
					硬 度 (ボンド)	糖 度 (%)	酸 度 (g/100ml)	
中央農試	ハックナイン	5.7	5.30	271	13.8	14.4	0.58	1981~1984
	ふ じ	5.8	5.30	233	18.7	14.2	0.44	

参照 1)北海道農務部。昭和60年普及奨励ならびに指導参考事項。37-39(昭和60年3月)。

(2) きたかみ (旧系統名 盛岡15号)

登録番号：(北海道)りんご準第7号；(農水省)りんご農林4号；(種苗法)第366号

来歴 本品種は、1959年(昭34)に東北農業試験場園芸部(現、果樹試験場盛岡支場)において、「東北2号」を母、「レッドゴールド」を父として人工交配を行い育成したもので、1981年(昭56)に「きたかみ」(りんご農林4号)として農水省に登録された。本道では、1968年(43)より「4814-18」、その後「盛岡15号」、さらに1982年(昭57)以降は「きたかみ」として各種の試験を行い、1986年(昭61)に優良(準奨励)品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要 1. 樹姿は、若木時代は直立性であるが、樹齢が進むに従い開張性となる。しかし枝の節間が短かく、樹全体としてはコンパクトになる。樹勢はやや強い。葉は大きさが中、先端が尖り、鋸歯は鈍鋸歯で浅い。花色は、蕾のときは淡桃色で、満開時には白色が強くなる。

2. 発芽期、展葉期、開花期などは「祝」とほぼ同じである。また熟期は9月中～下旬で、「祝」より約7日遅い。
3. 結実樹齢に達するのが早い。また短果枝の着生が多く、結果性は良好である。
4. 果実は扁円形で「旭」に類似し、果皮は全面濃赤色で縞は入らない。大きさは150~200gでやや小さいが、玉ぞろいは良い。
5. 収量性については、結実性が良いため「祝」より明らかにまざる。
6. 果肉は黄味の強い黄白色を呈し、硬さや肉質は中位で、果汁が多い。糖度は13%前後、酸度は0.5g/100ml前後と、甘酸ともに中位で、この時期の品種としては食味が極めて良い。
7. 収穫直後から適食期に入り、貯蔵性は、普通貯蔵で約2週間、冷蔵で約1か月である。また収穫が遅れると果肉の軟化が起り、貯蔵性が低下しやすくなる。
8. 生理的な早期落果や後期落果はともに少ない。
9. 赤星病に対して抵抗性を有し、他の病害虫についても一般的な管理でとくに問題はない。
10. 「レッドゴールド」との間では相互に交配親和性が低い。

栽培適地と奨励態度 栽培適地は、道内のりんご栽培可能地全域で、「祝」などにおきかえる。

栽培に当たっては、無袋栽培を基本とし、果実品質の向上を図るため着果数を適正とする。収穫が遅れると貯蔵性が低下するので、適期収穫に努める。また「レッドゴールド」との混植は避ける。

試験場名	品種名	台木	展葉期 (月.日)	満開期 (月.日)	収穫期 (月.日)	収量 (14年生) (kg/1樹)	1果重 (g)	果実品質			試験年次
								硬度 (ポンド)	糖度 (%)	酸度 (g/100ml)	
北海道農試	きたかみ	ミツバ	5.6	5.25	9.27	115.7	155	13.7	13.0	0.53	1980～ 1985
	祝	〃	〃	〃	9.17	65.7	187	14.5	12.3	0.53	
中央農試	きたかみ	M26	5.9	6.1	9.21	19.9	178	14.7	13.3	0.55	1980～ 1985
	祝	〃	5.10	〃	9.16	4.3	200	15.0	13.7	0.55	

参照 1) 吉田義雄, 等, 果樹試験場報告, C (盛岡) 9, 1-13 (1982).

2) 北海道農務部編, 昭和61年普及奨励ならびに指導参考事項, 29-31 (1986).

### (3) つがる (旧系統名 青り2号)

登録番号: (北海道) りんご準第8号

来歴 本品種は、1930年(昭5)に青森県りんご試験場において「ゴールデンデリシャス」を母として人工交配を行ったものから育成したもので、父に使用した品種は不明である。1970年(昭45)に「青り2号」と仮りに命名した。1973年(昭48)「つがる」と命名して、農産種苗法による名称登録を出願し、1975年(昭50)に「つがる」として名称登録された。道内では1974年(昭49)より各種の試験を行い、1986年(昭61)に優良(準奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 樹姿は、若木では直立性であるが、樹齢が進むに従い開張性となる。樹勢は中位、葉は楕円形で先端は鋭く尖り、鈍鋸歯である。花色は蕾のときは濃桃色で、満開時には淡桃色となる。

2. 発芽期は「祝」と差がないが、展葉期や開花期は「祝」より2日前後遅い。また熟期は9月下旬～10月上旬で、「祝」より遅く、「旭」より約10日早い。
3. 結実樹齢に達するのが早い。花芽の着生は「ゴールデンデリシャス」よりやや劣るが、「祝」より良い。また花芽は長果枝に多く着生する。
4. 果実は長円形で、果皮は、黄緑色の地に濃赤色の太い縞が入る。大きさは約250gと大きく、玉ぞろいは良い。
5. 収量性は「祝」や「旭」よりまさり、この時期に北海道で収穫できる品種としては収量性が最も高い方である。
6. 果肉は黄白色を呈し、硬さは中、肉質はち密で、果汁が多い。完熟するとわずかに蜜が入る。糖度は14%前後、酸度は0.4g/100mlと、甘味多く酸味の少ない食味の良い品種である。
7. 収穫直後から適食期となり、貯蔵性は、普通貯蔵で約1か月である。貯蔵中果面に脂質の発生がある。
8. 早期落果は少なく、栽培上問題とならないが、収穫期近くの後期落果は多いので、落果防止剤の散布が必要である。
9. 斑点落葉病には強い方であり、他の病害虫についても一般管理でとくに問題はない。
10. 花粉量が多く、花粉稔性率も高いので、授粉樹としても利用価値が高い。

栽培適地と奨励態度 栽培適地は、道内のりんご栽培可能地全域である。栽培に当たっては、無袋栽培を基本とし、結果母枝は側枝が出にくく、裸枝になりやすいので、整枝せん定に注意する。また、後期落果が多いので、落果防止剤の散布を行う。

試験場名	品 種 名	展葉期 (月.日)	満開期 (月.日)	収穫期 (月.日)	1果重 (g)	果 実 品 質			試験年次
						硬 度 (ボンド)	糖 度 (%)	酸 度 (g/100ml)	
北海道農試	つが る 祝	5.8	5.31	10.2	234	14.0	13.9	0.38	1980~ 1985
		5.6	5.29	9.17	187	14.5	12.3	0.53	
中央農試	つが る 祝	5.11	6.4	10.3	243	15.4	14.2	0.41	"
		5.10	6.1	9.16	200	15.0	13.7	0.55	

- 参照 1) 山田三智穂, 等. 青森県りんご試験報告, 18, 1—10 (1980).  
2) 北海道農務部編. 昭和61年普及奨励ならびに指導参考事項, 27—28 (1986).

## 2. ナ シ

### (1) 北 甘 (旧系統名 14号)

登録番号：(北海道) なし北海道第12号；(農水省) なし農林9号

来歴 本品種は、1956年(昭31)に北海道農業試験場において「甘玉」を母、「二十世紀」を父として人工交配を行い、実生樹を育成し選抜した。1964年(昭39)に「14号」の系統名を付し、1967年(昭42)から接ぎ木による増殖を行い、以降各種の試験を行ってきたもので、1979年(昭54)11月に新品種として農林水産省に登録され、1980年(昭55)に北海道の優良(奨励)品種に決定した。

- 特性概要 1. 樹勢は強く、樹姿は若木時代はやや直立するが、果実が結実するとやや開張性になる。
2. 枝の発生および太さは中程度で伸長力は強い。短果枝の着生は「初日」より少なく、中果枝の着生は多い。
3. 若葉は淡紅色で細毛多く、成葉は細長い長楕円形で大きさは中位、鋸歯は小さく密である。
4. 花芽の大きさは中位で着生は多く、えき花芽は「長十郎」より少なく中程度である。
5. 蕾は極淡紅色、花の大きさは中位で、花卉は5枚が主で6枚のものも混在する。花粉は多く、自然状態での結実歩合は極めて高い。また交配親和性はほとんどの主要品種と親和性で、自家受精もある程度行われる。
6. 果実は円形で、1果重は「初日」よりかなり重く、約240gである。果皮は黄緑色を呈し、外観や玉揃いは良いが、条溝を生ずるものが僅かある。果肉は白色で肉質はやや密、酸味が少なく甘味が多く、食味は良い。
7. 催芽期は5月7日前後で「初日」より4日程度遅く、開花始も「初日」より2日程度遅いが、開花盛期や終りは「初日」とほぼ同じである。また落葉期は遅い方である。
8. 収穫適期は、札幌付近では9月下旬で、早生種の晩に属する。
9. 収量性は、早生種としては多収である。また貯蔵性は約30日で、早生種としては日持ちが良い。

10. 耐寒性は「身不知」より劣るが、「長十郎」より強く、中の強に属する。

栽培適地と奨励態度 渡島、後志、石狩、胆振支庁管内に適し、栽培に当たっては有袋栽培とし、着果過多や早期収穫は避ける。

試験場名	品種名	催芽期 (月.日)	開花期 (月.日)	1樹当り(5~9年生平均)			平均 1果重 (g)	糖度 (%)	試験年次
				総果数	総果重 (kg)	左比 (%)			
北海道農試	北甘	5.7	5.26	474	113	217	237	11.4	1973~ 1979
	初日	5.3	5.26	324	52	100	162	12.2	

参照 1) 北海道農務部編. 昭和55年普及奨励ならびに指導参考事項. 45-46 (1980).

2) 中島二三一, 農業技術. 35, 26-28 (1980).

3) 中島二三一, 等. 北海道農業試験場研究報告. 141, 43-55 (1985).

## (2) 北 豊 (旧系統名 77号)

登録番号: (北海道) なし北海道第13号; (農水省) なし農林10号

来歴 本品種は、1953年(昭28)に北海道農業試験場において、「身不知」を母、「長十郎」を父として人工交配を行い、実生樹を育成し選抜した。1966年(昭41)に「77号」の系統名を付し、1967年(昭42)から接ぎ木による増殖を行い、以降各種の試験を行ってきたもので、1979年(昭54)11月に新品種として農林水産省に登録され、1980年(昭55)に北海道の優良(奨励)品種に決定した。

- 特性概要
1. 樹勢は強く、樹姿はやや開張性、樹の生育が良好で成木に達するのが早い。
  2. 枝の発生密度は中程度で、太く伸長力も強い。短果枝の着生は多いが、中果枝は中程度で「北甘」より少ない。
  3. 若葉は淡褐色で細毛少なく、成葉は長楕円形で大きさは中位、鋸歯は大きい。
  4. 花芽は多いがやや小さく、えき花芽の着生は中程度である。
  5. 蕾は淡紅色、花は白色でやや小さく、花弁は5枚。花粉が多いものの、自然状態での結実歩合は高くないが収量には影響しない。自家受精はほとんど行わず、交配親和性は主要品種では「初日」以外と親和性である。
  6. 果実是不整な短楕円形で、1果重は290g前後で玉揃いはやや良。果皮は黄緑褐色、果肉は白色で肉質はやや粗く、果心はやや大きい。果汁の酸味は少なく、甘味が多く、香気もあって食味は良い。
  7. 催芽期は5月3日前後で「初日」と差がなく、開花時期も「初日」と同じである。また落葉期は「初日」より遅いが、「北甘」より早い。
  8. 収穫適期は、札幌付近では9月中~下旬で、早生種に属する。
  9. 収量は極めて多い。また日持ち性は15~20日で「北甘」より短く、「初日」より長い。
  10. 耐寒性は極めて強く、日本ナシの中で最も強い「身不知」と同程度である。

栽培適地と奨励態度 石狩、空知、上川、網走支庁管内に適す。管理に当たっては、果実の肥大にともない枝が開くので、せん定はできるだけ枝を上げるように心掛ける。また極端に小さい果実をつけることがあるので、仕上げ摘果が必要である。

試験場名	品 種 名	催芽期 (月.日)	開 花 期 (月.日)	1樹当り(5~9年生平均)			平 均 1 果 重 (g)	糖 度 (%)	試 験 年 次
				総果数	総果重 (kg)	左 比 (%)			
北海道農試	北 豊	5. 3	5.26	661	190	365	288	12.4	1973~ 1979
	初 日	"	"	324	52	100	162	12.2	

- 参照 1) 北海道農務部編, 昭和55年普及奨励ならびに指導参考事項, 43-44 (1980).  
2) 中島二三一, 農業技術, 35, 29-31 (1980).

### 3. ブドウ

#### (1) ミュラー トルガウ (原名 Müller-Thurgau)

登録番号: (北海道) ぶどう準輸第3号

来歴 本品種は, 1882年(明15)にドイツの王立ガイゼンハイム果樹・ワイン園芸学校において, 「リースリング」を母, 「ジルバーナー」を父として交配し, スイスの誓約団ワイン・果樹栽培試験教育施設で選抜育成したものである。1973年(昭48)に北海道立中央農業試験場が, 西ドイツ国立バインスベルクぶどう・果樹栽培教育試験場から導入し, 1975年(昭50)にほ場に栽植して以来各種の試験を行い, 1981年(昭56)に優良(準奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 本品種は白ワイン用の醸造専用品種である。

- 樹勢は中～やや弱で, 垣根仕立て栽培に適合する。
- 果皮は黄緑色から緑黄色となる。果房は円筒形で粒着は密であり, 200g程度である。果粒は短楕円形で2.0~2.5gである。花振り, 裂果はほとんどない。
- 中央農試での展葉期は5月末, 開花期は7月上～中旬である。熟期は中央農試では10月上旬, 仁木町では9月下旬~10月上旬である。
- 耐寒性はやや弱く, 灰色かび病に対してもやや弱い。またフィロキセラに対する抵抗性はない。
- 収量性は高い方で, 中央農試や仁木町では10a当たり1トンあるいはそれ以上の収量を得ることが可能である。しかし富良野市では凍害のため収量は少なかった。
- 果汁の糖度は17%程度で, 酸度は, 中央農試では1.1~1.2g/100ml, 仁木町ではそれよりやや低い。またワインとしての醸造適性についてはとくに問題がない。

栽培適地と奨励態度 空知以南およびそれに準ずる地帯に適す。栽培に当たっては, 凍害防止, 樹勢維持のため, 冬期間枝伏せを実施し, 着果過多は避ける。また早採りでは品質が劣るので, 完熟した果実の収穫に心掛ける。

(試験成績は「ツバイゲルトレーベ」の項に記載)

- 参照 1) 北海道農務部編, 昭和56年普及奨励ならびに指導参考事項, 37-40 (1981).  
2) 松井文雄, 等, 北海道園芸研究談話会報, 14, 50~51 (1981).

(2) セイベル 5279 (原名 Seibel 5279)

登録番号：(北海道) ぶどう準輸第4号

来歴 本品種は、フランスのアルバート・セイベル氏がフィロキセラ耐性品種の育成を主目的として、「Seibel 788」を母、「Seibel 29」を父として交配し育成した種間交雑品種である。1974年(昭49)に北海道立中央農業試験場が富良野市から導入し、1975年(昭50)にほ場に栽植して以来各種の試験を行い、1981年(昭56)に優良(準奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 本品種は白ワイン用の醸造専用品種である。

2. 樹勢はやや強いが、垣根仕立て栽培が可能である。
3. 果皮は黄緑色から黄白色となる。果房は円筒形で、粒着は中程度であるが、花振いがやや多い。果房重は150～200gである。果粒は扁円形で、2.0g前後である。果皮がうすく、裂果することがある。
4. 中央農試での展葉期は5月下旬、開花期は7月上旬。熟期は早く、中央農試や富良野市では9月下旬～10月上旬。仁木町では9月下旬に成熟する。
5. 耐寒性はやや強く、灰色かび病の被害は中程度である。
6. 収量性は高く、10a当たり1トンあるいはそれ以上の収量が得られる。年により花振いの多発で収量をやや低下させることがある。
7. 果汁の糖度は16%程度、酸度は1.3～1.5g/100mlで、ワイン醸造上とくに問題はない。

栽培適地と奨励態度 上川以南およびそれに準ずる地帯に適す。栽培に当たっては、凍害の危険を避けるため冬期間枝伏せを行い、着果過多にならないよう注意する。また花振いを起こしやすいので、適切な肥培管理を行う。早採りでは品質が劣るので、完熟した果実の収穫に心掛ける。

(試験成績は「ツバイゲルトレーベ」の項に記載)

参照 1) 北海道農務部編、昭和56年普及奨励ならびに指導参考事項、41—43(1981)。

(3) セイベル 13053 (原名 Seibel 13053)

登録番号：(北海道) ぶどう準輸第5号

来歴 本品種は、フランスのアルバート・セイベル氏がフィロキセラ耐性品種の育成を主目的として、「Seibel 7042」を母、「Seibel 5409」を父として交配し育成した種間交雑品種である。1974年(昭49)に北海道立中央農業試験場が富良野市から導入し、1975年(昭50)にほ場に栽植して以来各種の試験を行い、1981年(昭56)に優良(準奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 本品種は赤ワイン用の醸造専用品種である。

2. 樹勢は中位で、垣根仕立て栽培に適合する。
3. 果皮は黒色となる。果房は円錐形で、粒着は中程度であるが、花振いがやや多い。果房重は150g程度である。果粒は円形で、2.0g程度である。
4. 中央農試での展葉期は5月下旬、開花期は6月下旬～7月下旬。熟期は中央農試や富良野市では9月下旬～10月上旬。仁木町では9月下旬である。
5. 耐寒性は強く、灰色かび病の被害は中程度である。
6. 収量性は高く、10a当たり1トン程度の収量を得ることが可能である。年により花振いの多発で収量を低下させることがある。

7. 果汁の糖度は16%前後で、年によるふれがやや大きい。酸度は約1.5g/100mlで、ワイン醸造上とくに問題はない。

栽培適地と奨励態度 上川以南およびそれに準ずる地帯に適し、栽培上の注意は「セイベル5279」に準ずる。

(試験成績は「ツバイゲルトレーベ」の項に記載)

参照 1) 北海道農務部編。昭和56年普及奨励ならびに指導参考事項。44-46 (1981)。

#### (4) ツバイゲルトレーベ (原名 Zweigeltrebe)

登録番号：(北海道) ぶどう準給第6号

来歴 本品種は、オーストリアの高等連邦立クロスターノイブルグワイン・果樹栽培学校において、「ブラウフレンキッシュ」(リンベルガー)を母、「サンローラン」を父として交配し育成した品種である。1973年(昭48)に北海道立中央農業試験場が、オーストリアのクロスターノイブルグ修道院ワイン部から導入し、1975年(昭50)にほ場に栽植して以来各種の試験を行い、1981年(昭56)に優良(準奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 本品種は赤ワイン用の醸造専用品種である。

2. 樹勢は中位で、葉が大きく、垣根仕立て栽培によく適合する。

3. 果皮は紫黒色となる。果房は円錐形で、粒着は極密であり、300~350gである。果粒は円形で、2.0~2.5gである。花振り、裂果はほとんどない。

4. 中央農試での展葉期は5月末、開花期は7月上~中旬、熟期は10月上旬である。

5. 耐寒性は中位で、灰色かび病の被害は中程度である。フィロキセラに対する抵抗性はない。

6. 収量性は高く、中央農試や仁木町では10a当たり1トン以上の収量が得られる。しかし富良野市での収量はやや少ない。

7. 果汁の糖度は18%程度、酸度は1.3g/100ml程度で、ワイン醸造上問題になる点はない。

栽培適地と奨励態度 空知以南およびそれに準ずる地帯に適し、栽培上の注意は「ミュラートルガウ」に準ずる

試験場名	品 種 名	開花期 (月.日)	収穫期 (月.日)	収 量 (kg/樹)	平均果房重 (g)	糖 度 (%)	酸 度 (g/100ml)	試験年次
中央農試	ミュラー トルガウ	7.12	10.4	5.3	184	17.3	1.16	1978~1980
	セイベル 5279	7.7	9.30	5.2	173	16.2	1.46	
	セイベル 13053	7.4	9.30	6.8	148	16.0	1.51	
	ツバイゲルトレーベ	7.11	9.30	5.4	321	18.1	1.36	

参照 1) 北海道農務部編。昭和56年普及奨励ならびに指導参考事項。47-49 (1981)。

2) 松井文雄, 等。北海道園芸研究談話会報。14, 52-53 (1981)。